

令和五年度収蔵品修理報告

小栗判官絵巻 卷十五 一卷（十五巻のうち） 伝岩佐又兵衛

紙本着色 江戸時代（十七世紀） 施工―（株）岡墨光堂

本修理は、平成二十八年度から開始した八カ年計画の最終年度にあたるもので、修理方針は昨年度までと同じく変更はなかった。

修理前の状態については、画面の反り（図1）、本紙の亀裂や欠失、折れ（図2）、継ぎ代部分の糊離れ、そして絵具層の粉状化や剥離・剥落、白濁化が確認された。また各所に白い微跡も認められた。

本紙の肌裏紙を除去し、透過光などで細部を観察したところ、本紙が全体的に薄くなっていたことから、これまで修理した他の巻と等しく、過去の修理で相剥ぎが行われたと考えられる。また彩色の指示書や、表の描写と異なる下書線、第十七・十八紙では、仏の頭光の円形描写に使用されたコンパスの中心点なども確認できた。ほかにも本紙の継下部分の多くから、修理時の通し巻数と紙数の墨書、あるいは霞や彩色も認められるなど、修理や制作工程の一端が伺えた。

軸木を巻く軸巻紙に、他巻と同じく墨書が確認された（図3）。これによると、全巻の修理を元禄元年（一六八八）十月から開始し、翌二年（一六八九）三月二十八日に完了したこと。その際、二十六巻を十五巻に仕立て直したと。修理は江戸通本石町三丁目の経師中村太郎兵衛と杉江兼宣が手掛けたことなどが記されていた。これによって、本紙の総延長三五〇メートルを越す大部の絵巻を、極めて短期間で修理したことが判明した。

修理後の体裁については、修理銘により本来は二巻仕立てであったこと。さらに今後の取り扱いや作品の安全性も考慮して、制作当初の第二十五巻の巻末にあたる第十紙と、第二十六巻巻頭であった第十一紙で分巻し、当初の姿である二巻に仕立て直した。また表紙裂は修理前の裂を復元し、巻緒、見返し、軸巻、八双、軸木は新調。軸首は分巻後の上巻を元使いとし、下巻は新調した。あわせて桐製の太巻と白羽二重の包装を添えた。

なお、修理全体についての詳細は、次年度以降に報告の予定である。

（当館学芸部展示・普及課長 戸田 浩之）

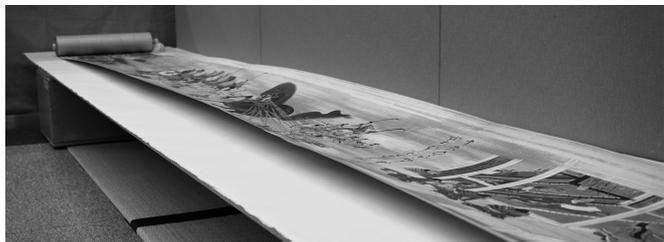


図1 画面の反り（上：修理前、下：修理後）

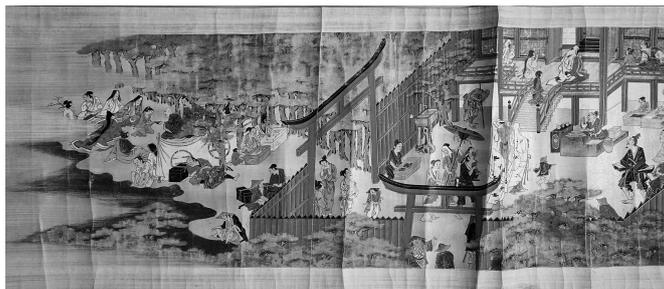


図2 画面の折れ（巻末）

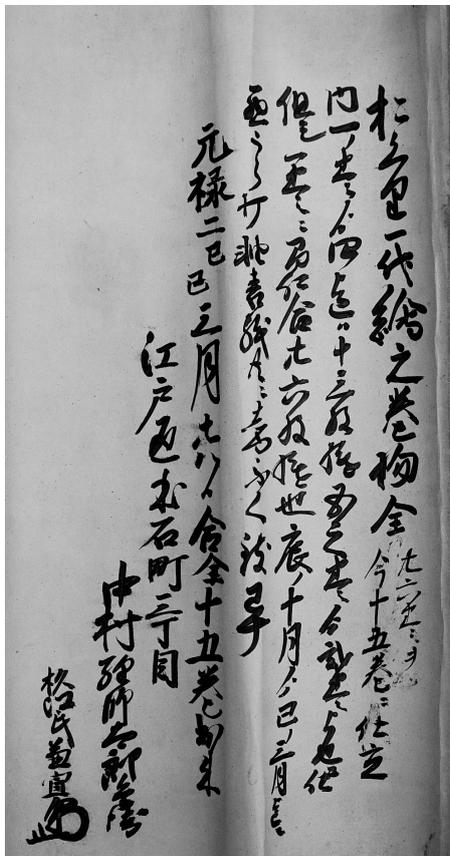


図3 軸巻紙墨書

本紀要の投稿原稿は、編集委員において査読を経た審査をし、採用決定したものを掲載しています。

掲載内容は、収藏品および館の業務に関わるものを題材とし、関連諸学（美学・美術史学、歴史学、考古学、博物館学、博物館教育、博物館情報、保存科学等）における研究、および上記以外の館の活動に関わる事業・事例等報告とします。

このうち、事業・事例等報告や調査概報については、査読はないものとします。

編集委員

委員長

建石 徹

戸田 浩之

五味 聖

高梨 真行

瀬谷 愛

・『尚蔵―皇居三の丸尚蔵館紀要』中、作品名や作者、制作年などの表記は、紀要発行当時のものです。

・『尚蔵―皇居三の丸尚蔵館紀要』の著作権は独立行政法人国立文化財機構皇居三の丸尚蔵館に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・『尚蔵―皇居三の丸尚蔵館紀要』に掲載された文章や図版を利用する場合は、出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、当館ホームページ記載の手続きを行ってください。

尚蔵

―皇居三の丸尚蔵館紀要

創刊号（通号三〇号）

二〇二四（令和六）年度

編集
発行

皇居三の丸尚蔵館

制作

東京都千代田区千代田一―八
株式会社アイワード

翻訳

北海道札幌市中央区北三条東五―五―九一
山口敏之（株式会社イー・シー）

二〇二五年三月三十一日発行